

# 社会構造論2005

## 1 地域社会の構造

# 農村と都市

- 集落(聚落):人々は相互に関連しあって生活; その重なり合っている生活空間
- 社会的交流の結節機関: (役所、会社・商店、娯楽施設、公的集会所等)の集中:都市
- 村落社会:生業形態が同質、親族の集中、インフォーマルなネットワークが強い
- 都市:機能分化した生業に従事する人々の相互依存の関係が中心

# シカゴ学派(パーク、バージェス、ワース)のエコロジー・モデル

- 都市は同心円構造をなし、1都心空間: オフィス街、繁華街、2遷移地帯: 土地投機がなされ、居住環境の整わない地域、スラム街、3労働者街: スラム地域を抜け出し、定職を持ち働く労働者の町、4ホホワイトカラーの住宅街、5高級住宅街 それぞれの空間にそれぞれの生活様式があり、同種の生活様式を持つものが集まるようになる。

- 伝統社会では都心部に全ての公共施設、その外縁に有力者の住居、下層・スラムは都市の周辺部におかれる(城壁都市、城下町)
- アジア型: 様々な社会階層の雑居状態。都市の発達はその雑居性を高める。高級マンションの隣にスラム。
- 地域内の社会階層・集団単位のまとまりが難しくなる: 西欧社会との比較で、地域集団やボランティア集団の結成を難しくしている
- 日本のボランティア: 市民運動型
- 西欧のボランティア: 地区、教会単位

- 都市空間は都市計画・行政と密接な関連があり、日本のように土地投機に無策(行政が管理できる、ないしはしようと思わない)なままではいびつな都市空間を形成
- 例:住宅地が虫食いの的に商業地に。地上げ。
- 開発利益の偏在 地価高騰:恒産を持たない市民は郊外へ駆逐され、遠距離通勤。産業化が進行する国家では、地価は上昇し、投機の対象

- 日本人の生き方：教育投資と自宅購入に一生を費やす。これ以外の人生を送ることができる人は土地を都心に持ち得た人のみ。別言すれば、これに金を費やすことがなければ、日本の収入水準ではかなりの豊かな、或いは文化的な生活を享受できる。
- 近年の都市計画：コンパクト・シティ（都市の機能を集積、横の広がりを抑える 通勤時間、除雪、インフラ負担の軽減）、自然環境の保護 札幌はマンションライフがよいのでは

# 農村社会学の展望

- 1 中山間地域の問題：過疎、高齢化、地域振興 内発的発展の可能性は？
- グリーン・ツーリズム、環境保全、産直型農業等々
  
- 2 農村、地方の家族・地域社会の変化
- イエ・ムラ 地域性を生かしたゆとりの生活
- 都会、都市との差異化

# 都市社会学の課題

- 1 グローバル化された都市の構造分析(外国人、歓楽街、寄せ場、諸施設、生活空間)
- 2 都市の社会関係、社会集団(市民運動、NPO、満員電車、)
- 3 都市と災害等 特殊領域の諸問題